

当総務委員会に付託された案件については、

9月6日は午前9時30分から、11日は午後1時30分から、

18日は午前9時30分から、いずれも委員会室において、

委員全員出席のもと、慎重審査しましたので、その経過と結果をご報告

申し上げます。

初めに、認定第1号中、当委員会に分割付託された案件については、補

足説明<sup>のち</sup>の後、質疑に入り、主な質疑として、

令和5年度事業に関し、市長として評価する点及び反省する点をどのよう

に捉えているのか。とに対し、

中心市街地活性化については、市長特任顧問という民間人材を間<sup>あいだ</sup>に置

いたことにより、市民の皆さんも自分事と捉えて主体的に活動していただいたこ

とと、市民と職員が相互に理解し合いながら意見交換ができたことは、評価し

ています。反省点として、前例にとらわれずに取り組むという職員の意識は変

わってきていると感じているものの、まだ十分でないと感じており、一層職員に

伝えていきたいと考えています。とのこと。

歳入、2 1 款 6 項 1 目、公用車車両広告収入について、

1 台あたり月額 2 千円から 3 千円に設定したとのことだが、金額設定の根拠は何か。とに対し、

同様な事業を実施している他市を参考にしました。とのこと。

歳出、2 款 1 項 2 目、広報事務について、

はんだ市報の満足度が増加していることは、市報に関心があつて読んでいる方の評価だと思うが、それ以外の方の評価はどのように<sup>おこな</sup>行うことを検討したのか。とに対し、

市民アンケートによる分析結果では、読んでいる年代は高齢者が多いことから、若い世代に読んでいただくことが課題のひとつと捉えています。今後は、e モニターによるアンケート調査などにより別の指標を設けていくことに加えて、若い世代が関心を持ち読んでいただける市報づくりに努めていくことを考えています。とのこと。

また、SNS のなかで LINE が高齢者も含め最も幅広く利用されていると思うが、半田市公式 LINE 登録者数の目標と評価は、どのように捉えているか。とに対し、

半田市公式 LINE 登録者数の目標は設定していませんが、過去 3 年

では約 2 千人ずつ増えています。幅広い年代に使いやすいものとなるよう、今後も LINE の機能改良やホームページとの連携を強化するほか PR に努め、登録者数を増やしていきたいと考えています。とのこと。

同項 6 目、ふるさと納税事務について、

ふるさと納税は返礼品競争となっている厳しい現状のなか、ふるさと納税サイトなどで返礼品の魅力を伝え寄附額を増加させるため、どのような検討<sup>おこな</sup>を行ったのか。とに対し、

令和 5 年度は返礼品数を増やすことに尽力しました。寄附額を増加させるために、返礼品の見せ方も非常に重要と考え、今後はプロカメラマンによる返礼品の撮影会を実施し、その写真を活用して見せ方を工夫したいと考えています。とのこと。

同日、シティプロモーション推進事業について、

当事業は定住人口を増やすことを目的に実施していると認識しているが、39 歳以下の「これからも住み続けたいと答えた市民の割合」を成果指標として設定したことについて、指標を変更する議論はあったか。とに対し、

当事業の最終的な目的は、定住人口の獲得であるため、特に若い世代に絞ってこの指標を設定しましたが、都市イメージの向上と愛着の醸成という 2

点を目標にプロモーションを推進することで、定住人口を獲得していくものと考えていますので、今後は他の指標も検討していきます。とのこと。

また、シティプロモーションの取組みを開始してから7、8年経過するものの、令和5年度の実績値を見ても若い世代になかなか根付いていないようだが、成果をどのように評価しているのか。とに対し、

若い世代が、都市イメージや愛着など、半田のまちについて判断するための具体的なイメージが上手く届いていないことが要因であると分析し、子育てなどのシティプロモーションに関する具体的なイメージを届けることが必要と考え、今後は、効果が薄かった取組みを整理し、事業のスクラップアンドビルド<sup>おこな</sup>を行い、若い世代に響くように努めていきます。とのこと。

同項8目、DX推進事業のうち、

スマホよろず相談会について、毎回参加者数が多いように見受けられたが、実施状況はどのようであったのか。また、どのように評価しているのか。とに対し、

令和5年度は454人に参加いただきました。毎週火曜日に1人あたり30分として実施し、予約時点で約8割の枠が埋まっていることから、今後も継続して実施していきたいと考えています。とのこと。

また、行政手続きのオンライン化率が目標値 46.1%であるのに対して実績値が27.0%となっており、行政手続きのオンライン化が進んでいない理由は何か。とに対し、

令和5年度は、ロゴフォームという汎用的な電子申請システムを導入しましたが、システムの導入だけに留まりました。また、デジタル課としての関わりが少なく、手続きを担う担当課に任せていたことが進まなかった理由だと分析しています。そのため、令和6年度はデジタル課も主体的に関わり、担当課とともに進めていくようにしています。とのこと。

同項9目、交通安全推進事業について、

人身事故の発生件数が増加傾向にあるなかで、交通安全の啓発はどのように行ったのか。また、警察とはどのように連携を図ったのか。とに対し、

高齢者や子どもを重点とした交通安全教室などを開催するとともに、自転車乗車時のヘルメット着用補助制度のPRに努め、着用率を高める取組みを行いました。また、警察と連携し、交通安全キャンペーンの際に打ち合わせを行ったほか、交通事故が発生した時の検証の際に助言を頂き事故の抑止に努めました。とのこと。

同項12目、市民討議会運営事業について、

令和5年度からの事業だが、どのような課題があったか。また、どのように評価しているのか。とに対し、

市民討議会は、市民に市政に関心を持ってもらう目的で、事前勉強会と市民討議会を合わせて10回開催し、頂いた政策提言を令和6年度事業に結び付けることができたことは、市民の関心を市政に導くことができたものとして評価しています。一方で、討議テーマの選定等については、市政への興味関心を持ってもらう上で重要であることから、慎重に検討していかなければいけないと感じましたので、令和6年度ではより丁寧に協議を行ってまいります。とのことでした。

以上のような質疑<sup>おこな</sup>を行った後、討論<sup>のち</sup>を省略し、一般会計と2件の特別会計を採決しました。

まず、令和5年度半田市一般会計歳入歳出決算のうち、当委員会に分割付託された案件について採決した結果、

委員全員をもって認定することに決定しました。

次に、令和5年度半田市駐車場事業特別会計歳入歳出決算について採決した結果、

委員全員をもって認定することに決定しました。

次に、令和5年度半田市モーターボート競走事業特別会計歳入歳出  
決算について採決した結果、

委員全員をもって認定することに決定しました。

次に、認定第2号について、補足説明の<sup>のち</sup>後、質疑に入り、主な質疑として、

研修医については定員を確保するなか、研修後の半田病院への定着率は  
どのようか。とに対し、

研修医8名のうち、近年は半数以上が半田病院に定着しており、他病院  
と比較しても、定着率は高い傾向にあると考えています。とのこと。

看護師の離職率10%をどのように考えているか。また、負担軽減はどのよ  
う<sup>おこな</sup>に行ったか。とに対し、

日本看護協会がまとめている直近の全国平均離職率は11.8%であり、  
急性期病院や救命救急センターがある病院ほど離職率が高い傾向にあるた  
め、当院の離職率は高くないと考えています。また、業務内容を見直し従来  
看護師が行っていたベッドメイキングを派遣看護補助者に、加えて、検査時の

注射や検体採取などを他職種である放射線技師や臨床検査技師が担うことに改め、看護師の負担軽減に努めました。とのこと。

看護師の有給休暇取得数や残業時間数の部署によるバラつきの対策をどのように<sup>おこな</sup>行ったか。とに対し、

有給休暇取得数は大きなバラつきが生じないように、部署ごとに目標値を設定するとともに全部署の目標値を確認できるような仕組みを設け、できるだけ均一に取得するように努めました。また、部署によってバラつきが生じている残業時間数については、解消策として、全部署で毎日15時にどの業務がどれくらいの量が残っているかを確認し、残っている業務を他部署からの応援により対応するという仕組みを構築し改善を始めているところです。とのことでした。

その後、討論を省略し、採決した結果、委員全員をもって認定することに決定しました。

以上、ご報告申し上げます。